

地域の特性を活かした林業担い手の育成確保支援について

1 テーマの趣旨・目的

徳島県の東部農林水産局＜徳島＞管内において、大型製材工場が稼働したことに伴い、安定的な県産材の供給、さらには増産が喫緊の課題である一方、当管内での素材生産量は人材不足などの影響で伸び悩んでいる。

他方で、当管内は県内24市町村のうち県庁所在地の徳島市を含む13の市町村が含まれ、65歳以下の人口は県全体の約78%と子どもや労働人口が多い。加えて川上から川下まで林業関連産業が集約された地域でもあり、各々の段階の林業を体感できる環境が身近に存在するといった特性がある。

また、都市部と林業地帯が比較的近いことから、通勤面から林業に就業しやすい環境という特性もある。

そこで、これらの地域特性を活かし、林業担い手の育成確保に向けて、「未来」の担い手候補となる若者に森林林業への関心と知識の習得を図った。

2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

(1) 現状

東部農林水産局＜徳島＞管内では、新たな林業の担い手確保に向け、中学生や高校生を対象とした学習支援を行ってきており、新規就業者数は一定数あるものの離職率が高いこと、また高齢化等で退職する林業従事者が多く補充が追いついていない状況である。

そこで、人口の多い徳島市において小中学生にアプローチし、まずは森林・林業に関心を持ってもらう青少年の数を増やすことが不可欠と考えた。

(2) 取組内容

キャリア教育に取り組む県や市の教育委員会に協力を得て、校長会に出向き森林教室の募集やアンケート調

査などを行った。

また、専門性と関連産業への関心が高い高校生等に対しては、森林林業や木材産業に関する学習や実技・施業の体験学習を実施し、近い将来の林業従事者となってもらうべく育成を図った。

＜主な取組内容＞

① 「体験して終わり」にしない学びの環

校長会でPR活動を行った結果、新たに2校の小学校から森林教室の依頼があり、県の木づかい運動についての講義や木工教室への支援を行った。その結果、ある1校では後日開催されたオープンスクールにおいて子どもたちが自ら作成したキーホルダーなどの木工製品を来校者に販売するとともに木の魅力を紹介するなど、学習成果が披露された。

そして学校側からさらに木材について深く学びたいという要望があり、製材所の見学も実施した。一本の丸太が製品になるまでの過程について学習することで、木材について知識を深めてもらった。また、3月には徳島駅前商業施設において「木の魅力を伝える」をテーマに、木工アートを展示するまでに活動が広がった。



木工アート展の様子

② 流域連携での支援 ～丸太のリレー～

当管内の中部を流れる勝浦川の川上、川中、川下に位置する3校において、それぞれの地域の森林・林業を考えてもらう活動に加えて、3校が連携した森林教室を実施した。

まず川上にある上勝中学校では、「木材の生産地」として地元森林組合の原木市場を見学し、市場の役割や丸太の見極め方などを学んだ後、川中の中学校で使ってもらった丸太を選んでもらった。

次に川中にある勝浦中学校では、「木材の加工地」として、地元製材所の見学を行った。製材には川上の中学校が選んでくれた丸太を使用し、丸太から板になり納品の形まで一連の過程を見学した。

そして川下にある小松島中学校では、「木材の消費地」の立場で川上・川中からの想いのこもった板を使用して本棚作りを予定したが、1学年140名で一斉に作業することは困難であったため、実際の木工作业は技術の時間に実施してもらった。森林教室の時間では製材時の動画とともに板ができるまでの説明、伐倒のVR体験、クイズ、チェーンソーなどの林業機械に触れてみるコーナーなどを体験してもらった。



土場で丸太を選ぶ中学生

(3) 成果

徳島市の教育委員会とも連携し、森林学習の実施校を募集した結果、都市部の徳島市において新たに2校が増えるなど普及対象校の拡大に繋がった。

<昨年度の森林学習支援の実施校>

- ・小学校 4校 (のべ209名)
- ・中学校 3校 (のべ201名)
- ・高校 2校 (のべ138名)

従来は各学校単発で完結する学習支援が大半を占めていたが、体験して終わりにしない学び、また流域での3校連携などを実施することにより、理解をより深めるきっかけ作りとして支援することができた。

(4) 課題

実際に林業が職業選択の1つとして考えてもらえるよう早い段階からのPRが必要と考える。

3 今後取組むべき内容

引き続き、森林・林業の大切さ、木材を使うことの意義などを伝えていくとともに、小中学校のPTA連合会の協力のもと、小中学生向けの「おしごと体験イベント」に出店し林業の魅力を発信することで、より確実に「林業」が職業選択の1つとなるようPRを行う。

また、市町村とも連携し、森林環境譲与税を使って森林教室を行うだけでなく、森林環境税の目的や使いみちなどを生徒と一緒に考える場づくりに取り組んでいきたい。